

し、

〔本朝食鑑^四味果〕煙草〇中略

煙草有宜新葉者有去年葉者或有二三年之陳葉最宜者俱有藏之法先用厚紙包封重用油紙包之或柿澀紙及用稻草薦而緊縛之而收于桐匱或磁壺中及舊酒槽中亦好其剉之法氣烈者極細氣柔者粗麤不可風乾不可火乾不可日乾不可水濕不可湯氣濕不可酒濕不可雨雪濕惟自然半乾半濕爲佳今市上販之者脂于葉面以其柔滑易細剉然油臭熏咽不可忍之最爲毒人若甚乾甚濕難速剉者酒水各半合以筌帚輕輕點之則易剉此爲急促而不可常用爾

〔塵塚談^下〕多葉粉刻やうのかはれる事我等二十歲頃迄は五分切といふて、あらく刻を伊達にせしに、近歲は至て細く糸の如くに刻む也、四五年已來はそのうへにこまかになり、こすりとかいふを賞翫す、刻むに押ゆる板をこまといふ、其こまの木口をすりてのみあるやうに刻む事なり、〔烟草百首〕上州館秩父館大山田の土葉、江戸にて用ざる烟草は、大坂へ登事夥し、彼地にては土砂を筭、豊後葉を以卷、鋤にて切に、一日に壹人にて三四十斤切事也、細く猫の毛のごとく、手ざわり至て和らか、然れども油の玄めりぬけざる故、快晴の日に干能乾し、日を経て賣出す、甚油臭し、味も土葉なれば下品なり、唯和かにして火を點するによく、價賤しきを賞してこれを吸、關東の人、此油の匂ひを嫌ふ、鋤にて切工能せしもの故、右に圖す、〇圖略

烟草利害
〔一話一言^{十五}〕烟草の事

世ハ末法ニ下リ、人ニ一ノ大病付ク、所以者何ハ、慶長元和ノ比ヨリ、烟草ト云妖草、異國ヨリ亘リ、人年々ニ賞翫シ用ルコト、日々ニ燁也、無德ニシテ失多トイヘドモ、風味ノ美ニ迷、此失ヲ顧ル人ナシ、聖人ノ世ニ此草出ナバ、五辛五戒ノ誠ヨリ堅カルベシ、第一座席ヲ穢シ、火艱是ヨリ起トイヘドモ、更不厭好マザルモノ、氣ヲ破リ、剩禮義ヲ不知、ケブリシタ、カニ吹カケ、吞ガラノ灰ヲ